

継続的な捕獲事業によりシカの密度が低下した地域における柵無し造林の試み

静岡森林管理署 入江明寛

1 柵無し造林の意義

苗木を植えてもシカに食べられてしまうため、シカ柵の設置が必要（写真1～3：シカ柵設置経費→100～250万円/ha）。

➡ 経費の負担が大きいため経営意欲が低下

➡ 経費をいかに削減するか。

写真1 金属柵 経費 **高**

写真2 縦張りネット

写真3 斜張りネット

写真4 柵無し造林 **低**

柵無し **無**

2 富士山におけるニホンジカ捕獲事業継続の成果

富士山の国有林（図1）でH23年度から捕獲を継続し（図2）富士山全体においてシカの生息密度が低下（表1）。

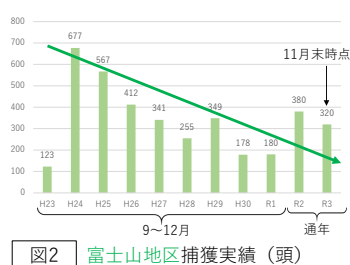
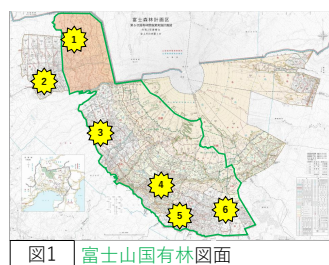
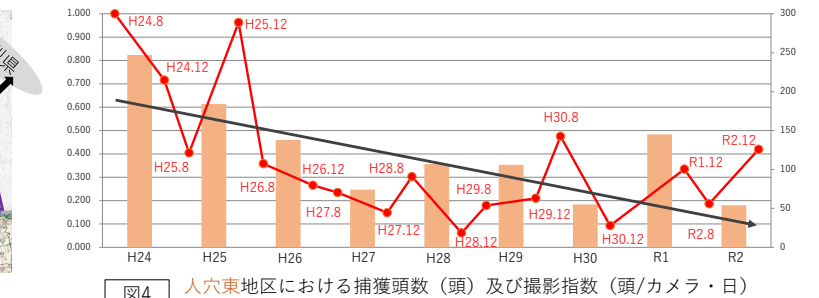
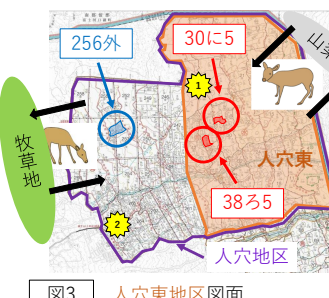


表1 静岡県実施糞粒法による生息数（頭/km²）

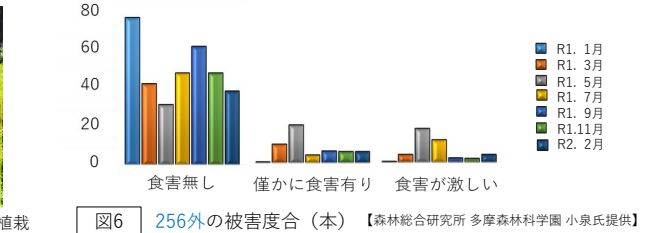
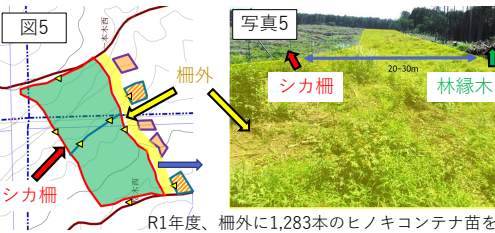
	H28	H29	H30	R1	R2
No.1	49	24	29	84	25
No.2	78	48	116	56	5
No.3	63	26	23	32	16
No.4	42	31	19	51	45
No.5	106	99	62		
No.6	116	76	19	29	31
合計	454	304	268	252	122
平均	76	51	45	50	24

※赤字：異常値（台風による風倒被害） 静岡県の目標生息密度

また人穴東地区（図3）においてもシカの生息数が減少した事が分かった（図4）。



さらに、風倒木による柵の破損を避けるためにシカ柵と林縁木の間を木の高さ分だけ離れた造林地（図5、写真5：256外）の柵外の苗木について、食害が殆ど無く（図6）、順調に成長している。



富士山国有林の造林地において新たに柵無し造林地を設定し、面的な柵外植栽に挑戦！

3 調査区域及び現状

①人穴東地区の造林地2箇所（写真6：30に5、写真7：38ろ5）においてR2年度冬季に地拵・シカ柵設置、R3年度春季に柵内・柵外ともにヒノキコンテナ苗の植付を実施。



②調査対象木は、柵内・柵外それぞれ造林地全体に均等になるように設定し、その結果対象木の本数は30、38林班合わせて2,739本（表2）となった。

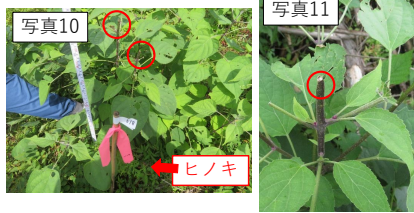
③柵外は9～11月にかけて苗長及び被害状況について調査を実施した（写真9）。

表2 調査対象木本数

林小班	植付本数(本)	調査対象木	
		本数(本)	比率(%)
30に5	柵外	3,215	774 (24)
	柵内	3,245	592 (18)
38ろ5	柵外	3,321	676 (20)
	柵内	5,709	697 (12)
柵外計	6,536	1,450	22
柵内計	8,954	1,289	14
合計	15,490	2,739	18

④【9～11月】30、38林班ともに、柵外においてはウツギやバラ等に多数の食痕があり（写真10、11）シカの痕跡が確認されたが、植栽木への食害は殆ど無かった。

※30に5柵外：99%食害無、苗長平均59cm
38ろ5柵外：97%食害無、苗長平均55cm



【12月～】嗜好性の高い植物の減少に伴って、植栽木への軽微な食害があり（写真12～14）、1月以降に再び被害調査を実施。



4 今後の調査及び施行

- 植栽後5年目（R7年度）まで毎年、苗木の成長が停止する晩秋から早春に苗長調査を1回実施し、被害調査については、苗長調査の時及び夏季に各1回ずつ実施。
- 被害調査項目は頂枝食害、側枝食害、樹皮剥ぎ、矮小化、枯死等。
- 柵内・柵外ともに下刈やつる切等、通常の保育作業を実施。

5 目標

捕獲事業を継続し捕獲圧を維持することにより、シカ柵設置経費を抑制

➡ コスト削減により経営意欲が向上し、主伐・再造林の拡大